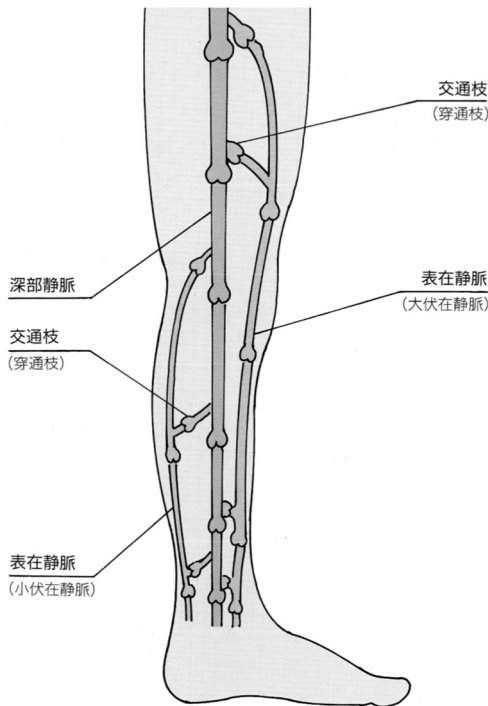


# 下肢静脈瘤の患者様へ



## 1. 静脈瘤とはなにか

心臓から全身に送られた血液は、毛細血管を通じて栄養物を組織へ渡し、老廃物を組織から受けとり、静脈を経由して再び心臓へ戻ります。

下肢の静脈については図のように皮膚のすぐ下を走る表面の静脈（表在静脈）系（大・小伏在静脈）と骨のすぐ横を走る深部静脈系がありますが、表在静脈系の血液もいずれは深部静脈系へ流れ込んで心臓へ向かいます。大伏在静脈は股の付け根で、小伏在静脈は膝の裏側で深部静脈に合流しますが、その他に交通枝（穿通枝）と呼ばれる血管によってつながっています。

足の血液は、歩くときなどに足の筋肉が収縮・拡張を繰り返すたびに筋肉によってしぼられ、心臓へと送られます。つまり、足の筋肉は血液を押し上げるポンプのような働きをしているのです（筋ポンプ作用）。しかし人間は

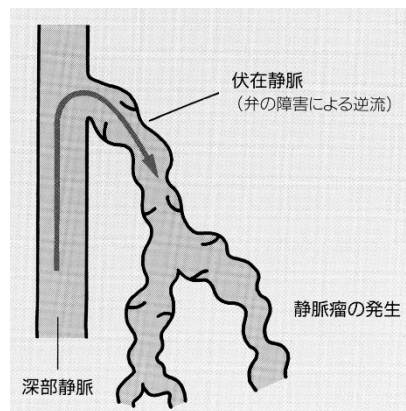
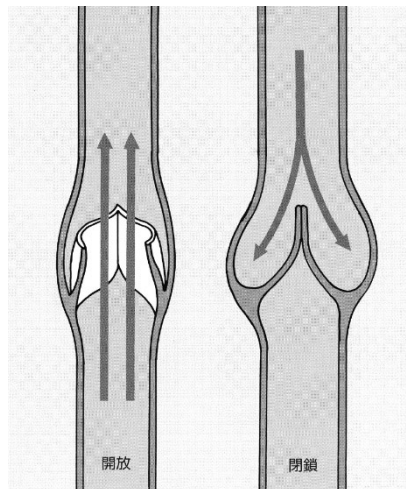
に静脈の圧力が低いために血液は足に溜まります。この逆流を防ぐ逆流防止弁（逆流防止弁）が

が悪くなりきちんと血液を止める事ができず、表在静脈が拡張したものです。

子

液が溜まってしまうために、足が疲れる、痛み・むくみなどがおこり、病状（痒みが生じ、感染によって静脈炎を繰り返す）が治らない。ができるようになり、美容的に気になるために来院される。短いスカートがはけるようになった。

年齢、性差：女性は男性の約1.2～2.8倍。子宮による静脈の圧迫、血流の増大、伝。④生活様式：長時間の立ち仕事な、コルセット着用などがいわれています。



立って生活しており、さら

先の方へ逆流しようとする働きをするのが静脈弁

## 2. 静脈瘤の症状と危険因子

血液が逆流して足に血れやすい、重たい感じがすがすすむと色が着いたり繰り返す難治性の潰瘍（きず）が出来ます。また症状はなくても方も少なくなく、治療後にと喜ばれることもあります。

危険因子としては、①加齢、②妊娠・分娩：ホルモンの影響など。③遺伝。⑤その他：肥満、便秘、